

内国産牝馬を相手にした場合、その大半はサンデーサイレンスのインブリーディングとなってしまうのが現状であり、輸入名牝の割り振りは、サンデーサイレンスの血であふれているがゆえにきつい近親交配を避ける意味も持ちます。参考まで、今年の社台S Sの種牡馬 33 頭におけるサンデーサイレンスの血の持ち具合を見てみましょう。

孫：12 頭

アドマイヤマーズ、イスラボニータ、オルフェーヴル、キズナ、キタサンブラック、クリソベリル、コントレイル、サリオス、シャフリヤール (※)、スワーヴリチャード、ダノンキングリー、ドウデュース

(※) 受胎率が低く、シーズン途中で退役。

曾孫：6 頭

イクイノックス、エピファネイア、エフフォーリア (※)、サートゥルナーリア、モーリス、ルヴァンスレーヴ

(※) サンデーサイレンスの3×4のインクロス持ちのため、正確に言えば「曾孫且つ玄孫（やしやご）」となる。

今年の社台S Sの繋養種牡馬のうち、輸入馬および持込馬を除いた 21 頭中 18 頭（86%）が上記ということです。

サンデーサイレンスのインクロス馬の多さについては、23 頁に掲載したトップサイヤーたちの産駒状況からも把握できますが、41 頁に書いたとおり、2022 年産馬 1950 頭におけるサンデーサイレンスのインクロス持ちの馬は 480 頭（24.6%）、つまり 4 頭に 1 頭です。これだけ量産されているのですから、一定の割合で良い馬は当然に出ます。以下は、今年の 8 月末現在の G I 馬のうち、サンデーサイレンスのインクロスを持った馬です。

2×4

カムニャック

3×4

デアリングタクト、エフフォーリア、サークルオブライフ、ソングライン、ジェラルディーナ、ドゥラエレーデ、レガレイラ、テーオーロイヤル、テンハッピーローズ、ブローザホーン、アーバンシック、アドマイヤズーム、エンブroidリー、ミュージアムマイル、メイショウタバル

4×4

ステレンボッシュ

サンデーサイレンスのインクロス馬の量産が始まってすでに久しく、私は「金太郎飴」を連想します。金太郎飴を彷彿させる配合の増加は、当然に生産界における遺伝子プールの偏りを助長します。これは、以下で論ずる遺伝的多様性の低下を惹起するわけです。

これだけ量産された金太郎飴なのですから、その中には他とは違いすぐれた「味」を出すものは、上記各馬のとおり、当然のことながらいます。そして、サンデーのインクロス馬が増加する中、今度はサンデーのインクロスで生まれた馬にまたサンデーの血を持った馬を交配する